

2013年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、極うずはシベリア沿岸に位置した。本州付近では亜熱帯ジェット気流が平年の位置から北偏したことに対応して、明瞭な正偏差となった。太平洋高気圧は本州東海上への張り出しが明瞭だった。太平洋から北米にかけては正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが卓越し、アラスカの南でリッジ（正偏差）、北米中部ではトラフ（負偏差）となった。ユーラシア大陸では寒帯前線ジェット気流が明瞭だった。

熱帯の対流活動は、インド北東部からベンガル湾北部、フィリピンの東海上、太平洋東部から中米付近、南米で平年より活発、インド洋、南シナ海で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は不明瞭だった。対流圏下層の赤道域では、インドネシア付近から太平洋西部と太平洋東部で西風偏差が卓越した。対流圏上層ではアジア域で亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンが見られ、インドの北西と本州付近で明瞭な高気圧性循環偏差となった。南方振動指数

は0.0だった。

世界の天候

2013年10月の世界の月平均気温偏差は $+0.20^{\circ}\text{C}$ （速報値）で、1891年の統計開始以来、5番目に高い値となった。10月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.62^{\circ}\text{C}/100\text{年}$ （速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

○ヨーロッパ南部～アルジェリア北部では、異常高温となった。

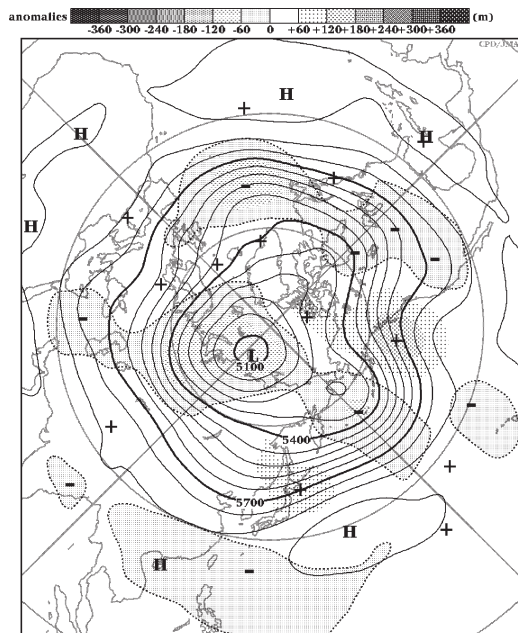
○アラスカ西部では異常高温となった。

○カナダ中部～米国中部では、異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

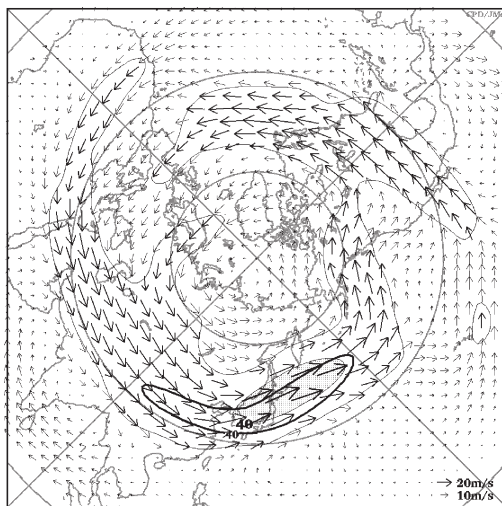
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



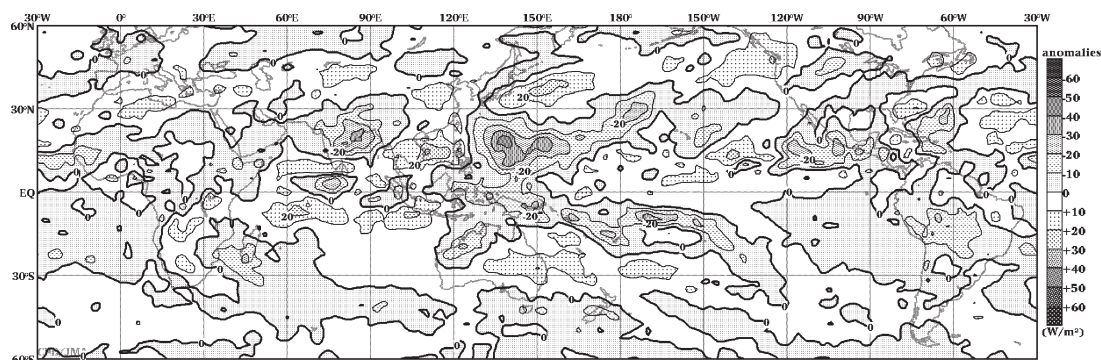
2013年10月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



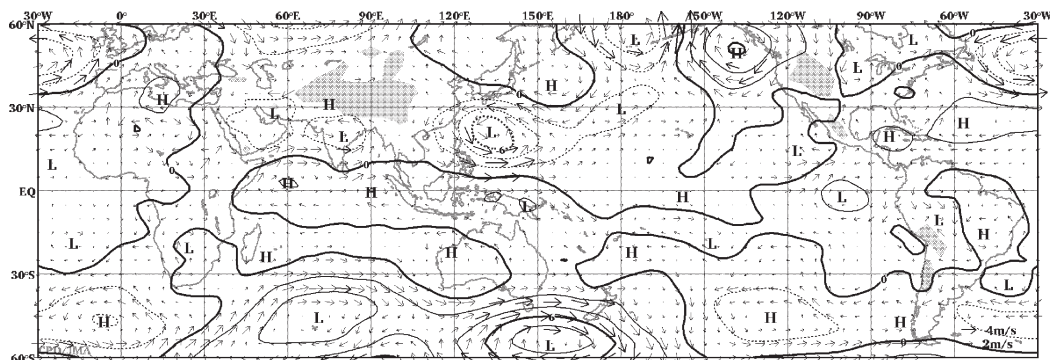
2013年10月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



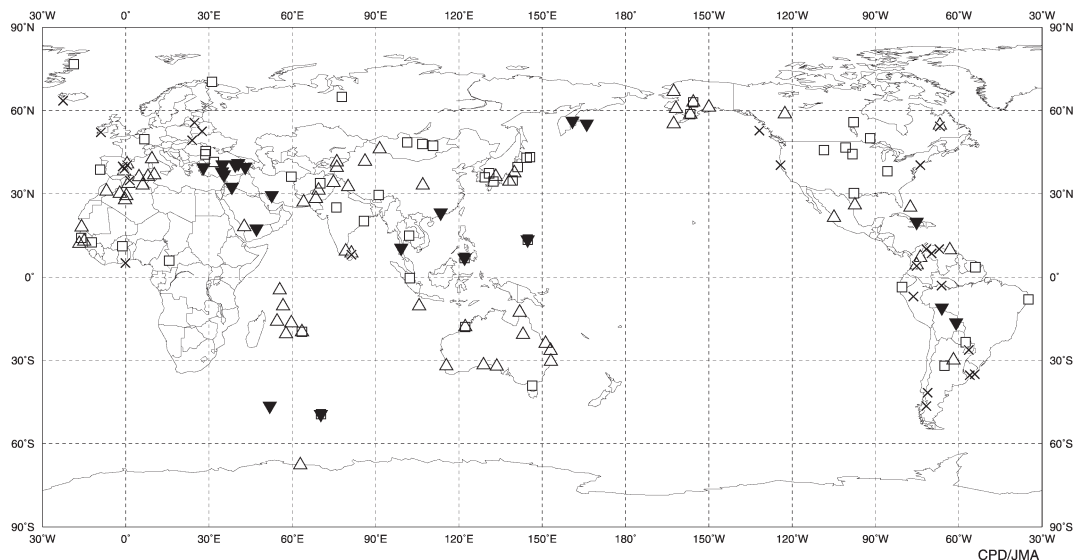
2013年10月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



2013年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



2013年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。